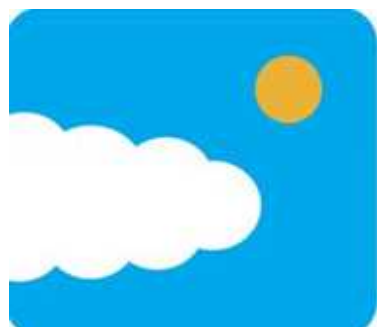


勝山市立保育園の あり方検討委員会



～ 経過報告 ～

令和4年11月17日

勝山市立保育園・幼稚園のあり方検討委員会
合同報告会

勝山市内の保育園等の状況

認定こども園、保育園、幼稚園一覧

区分	運営	園名	法人名	認定区分	
				1号	2・3号
認定こども園 (7園)	私立 (9園)	①ケイターこども園	ケイター翔育会	○	○
		②中央こども園		○	○
		③まつぶんこども園	松文福社会	○	○
		④しろきこども園	愛慈福社会	○	○
		⑤きたこども園		○	○
		⑥南こども園	やまぎし幼児会	○	○
		⑦上野こども園	上野福社会	○	○
保育園 (4園)	公立 (3園)	⑧鹿谷保育園	越前福社会		○
		⑨北郷わしのか保育園	大日園		○
		⑩平泉寺保育園	—		○
幼稚園		⑪野向保育園	—		○
		⑫成器南幼稚園	—	○	





勝山市内の保育園等の状況

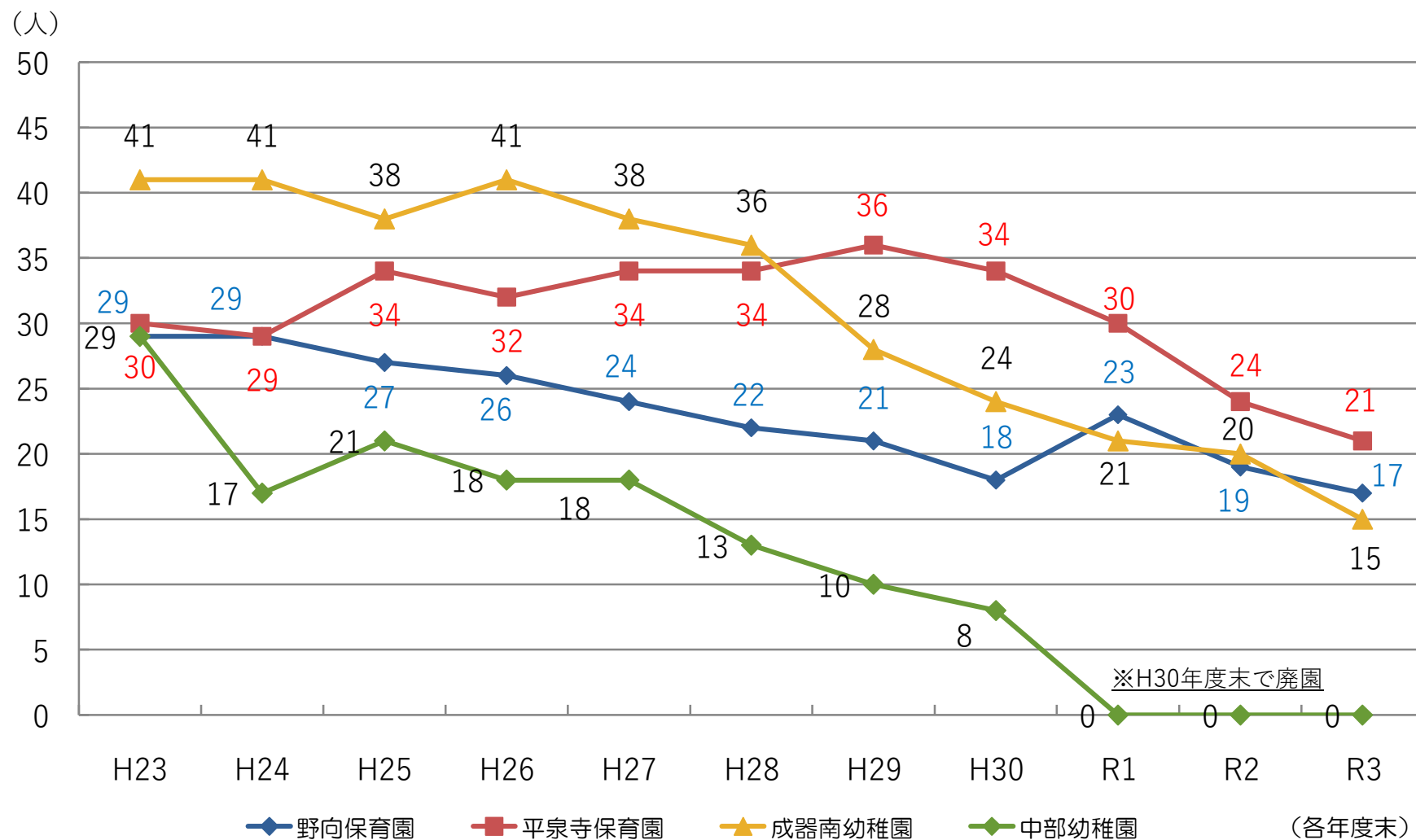
保育園等のこれまでの経過

年度	内容
平成15年度	中央保育園 → 民営化 (福) ケイター翔育会
平成21年度	南保育園 → 民営化 (福) やまぎし幼児会
平成27年度	北保育園 → 民営化 (福) 愛慈福社会
平成28年度	しろき保育園 → 認定こども園
平成29年度	きた保育園 → 認定こども園
平成30年度	上野保育園 → 認定こども園
平成31年度	松文保育園 → 認定こども園
	ケイター保育園 → 認定こども園
	中央保育園 → 認定こども園
	南保育園 → 認定こども園
	中部幼稚園 → 成器南幼稚園と統合、公立幼稚園は1園に
令和4年度	・ 幼稚園 1園 (公立1園) ・ 保育園 4園 (公立2園、私立2園) ・ 幼保連携型認定こども園 7園 (私立7園)

保育の必要性が
無くても幼稚園型
(1号認定) の
利用方法が可能に



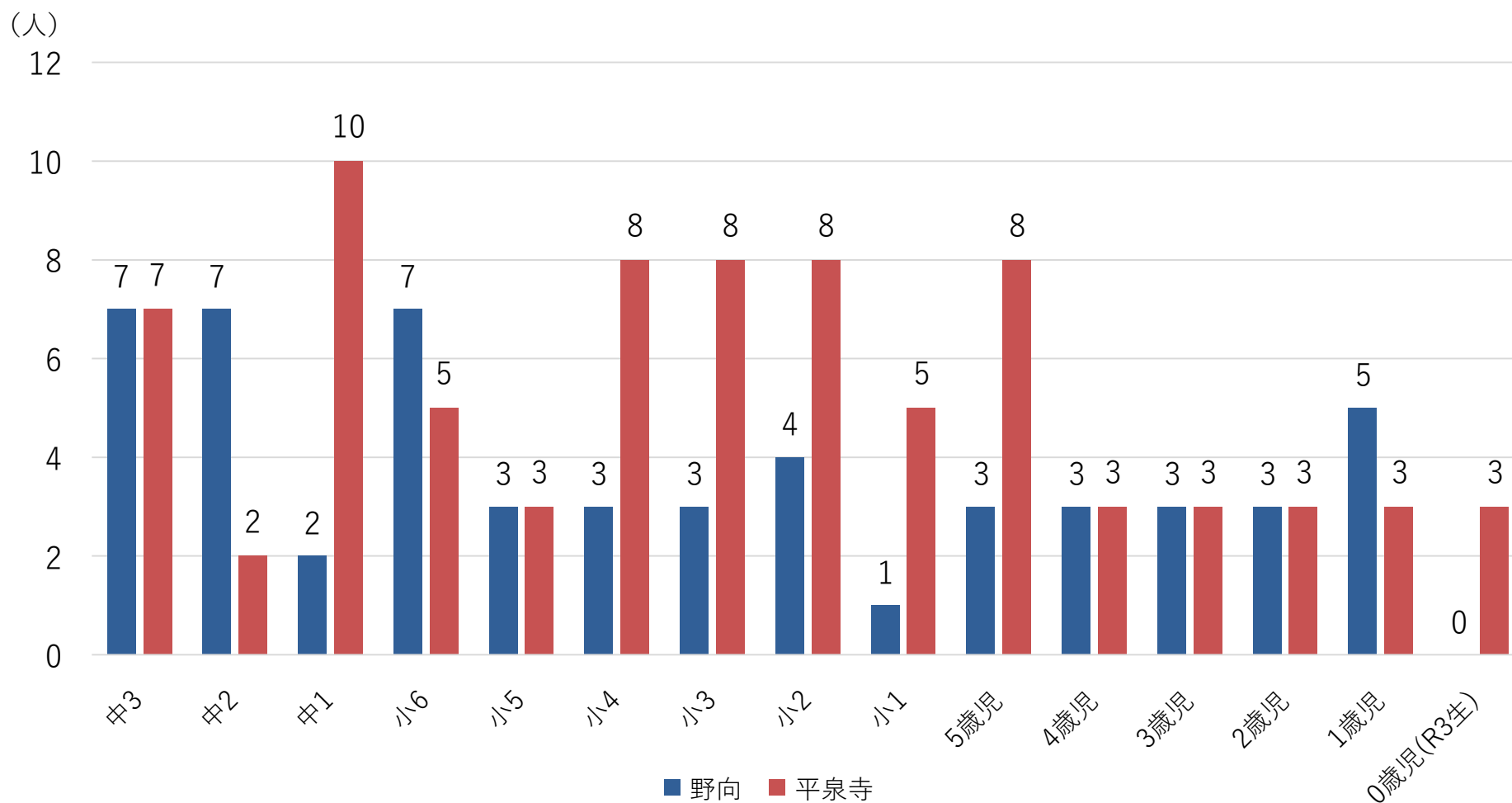
公立幼稚園・保育園の園児数の推移





平泉寺町、野向町における少子化の状況

年齢別の子ども数（野向、平泉寺）



※令和4年3月末現在



審議に至る経緯

- 市全域における急速な少子化の進行
- 公立保育園、幼稚園における園児数の減少
- 集団保育（教育）のあり方についての検討 など



今後の教育・保育施設のあり方について
早急に検討することが必要



勝山市立保育園のあり方検討委員会 にて審議



勝山市立保育園 あり方検討委員会 の実施状況について



第1回 6月16日（木） 午後7時～

※市立幼稚園のあり方検討委員会と合同開催

【協議内容】

- ・ 勝山市における少子化の状況説明
- ・ 今後のあり方検討委員会での審議の内容や方向性等を確認



保護者説明会の開催

野向地区 : 7月11日(月) 午後7時～

平泉寺地区 : 7月14日(木) 午後7時～

①協議内容

両地区の今後の子どもの数の見通しに係る説明等

②質疑応答



いただいた主なご意見（野向地区）

- 歳が小さい時期ほど、少人数で先生が目がしっかり行き届く環境が良いと考えており、そういう気持ちも汲んでほしい。
- 野向保育園から野向小学校に進学すれば、同じ友達と継続して過ごせることがメリットだと思う。
- できるならば、小規模な保育園をどうすれば残せるのかという点も検討してほしい。
- 市の考えとして、今後、廃園の方向を考えているならば、時期を具体的に示してほしい。また、急に話が進むようなことは避け、保護者が納得いくよう慎重に進めてほしい。



いただいた主なご意見（平泉寺地区）

- 平泉寺保育園と平泉寺小学校が交流し、進学がスムーズになるような取り組みがなされている。こういう状況も知ってほしい。
- 大人数で過ごすメリットもあると思うが、少人数で過ごすことにより、上の子が下の子の面倒を見たり、兄弟を頼ったりという状況が見られたほか、自然豊かな環境にもメリットを感じた。
- 例えば、数年後に廃園となった場合、子ども達は一旦、まちなかの子ども園等で、大人数の集団保育になじむだろう。
ただし、その数年後にまた、地元の小学校で少人数に逆戻りすることになり、それが子ども達に与える影響が不安である。



第2回 7月27日（水） 午後7時～

【協議内容】

- ・ 勝山市における少子化の状況の説明
（再確認）
- ・ 保護者説明会の意見について



勝山市立保育園のあり方検討委員会の実施状況

主なご意見

- なくなることのデメリットはもちろんあるが、まず子ども達に最も良い環境が何なのか市全体の視点から考えることも不可欠である。
- 大きい子が小さい子の面倒を見るなど工夫を凝らすことにより、小規模園にはできて大規模園はできないというのはないのではないのか。
- 公立保育園の意義はなく、民間の園を残せばいいという考えなのか。
- 保護者の立場からすると残してほしいという思いが強くなる。人数の面や経営の面等の観点から具体的な説明が必要である。
- 保育において、子どもに対し先生の数が多いことは、目が行き届くという点では良いことだが、一方で子ども同士の間人間関係も非常に大切であり、その点が補償されるのかも考えていく必要がある。



保育園への現地訪問（増田先生）

8月22日（月）午前10時～

【協議内容】

- ・ 野向保育園と平泉寺保育園の現地訪問
- ・ 各園長との意見交換



専門的見地からの所感

- 今の人数ならば、ギリギリ集団保育が成り立っていると感じた。同時に、今より人数が少なくなった場合、集団保育をするには厳しいとも感じた。
- 現状は、いい意味で平和に過ごしている。子ども同士、お互いの個性を理解していてケンカになることも少ない。ただし、もし今の倍の子どもがいれば、適度にケンカや揉め事がおき、お互い考える機会も増えていき、問題を解決する力もついてくる。



第3回 8月29日（月） 午後7時～

【協議内容】

- ・ 公立保育園の維持管理について
- ・ 保育の現状と今後の見通しについて



勝山市立保育園のあり方検討委員会の実施状況

主なご意見

- 子どもたちは、先生や子ども同士などふれあう相手が増えるほど、様々な意見に出会って、その面白さを知り、知識等を身に着けていく。一方で、日本の保育現場では、子どもに安心や安らぎを与える場所を確保する点も重要である。園の維持にはどのくらいの人数が適正かは言えないが、この2点を両立できる人数が妥当ではないか。
- 園の保護者等に情報をきちんと伝えることが大切だと思っている。この会で何が話し合われているのか分からないままでは、疑心暗鬼にもなっていく。
- 園児が少ないことが良いことだと考えている保護者もいることから、集団保育の大切さなど広い視点から保育の説明をしていくとよいのではないか。



合同保護者説明会の開催

9月13日（火）午後7時～

【協議内容】

- ・ これまでの検討委員会の経過報告
- ・ 講 演 ～子どもたちにとっての「保育」とは～
- ・ 質疑応答



勝山市立保育園のあり方検討委員会の実施状況

講演の主なポイント①

☆保育は「養護」と「教育」から成り立っており、保育者は常にこの2点を意識し、一体的に取り入れながら保育を実施している。

☆先生が一人ひとりの子どもを理解して、みんなの拠り所となることにより、「ここにいれば安心できる、生きていける」という空間が創出される。【養護】

☆子どもは、拠り所を確保するとチャレンジや冒険をしたくなり、色々なことに興味や関心を持つようになる。保育者は、そのチャンスを見逃さずに環境を構成するとともに、そこでの経験を意味付けていく。【教育】

☆【養護】と【教育】の2つが一体的に取り入れられることにより、はじめて、子ども達に質の高い保育を提供することが可能になる。



勝山市立保育園のあり方検討委員会の実施状況

講演の主なポイント②

- ☆野向・平泉寺の両園ともに、たくさんの先生が子ども一人ひとりをしっかり見てくれるという環境にあり、養護の面においては十分に満たされている。
- ☆一方で、子ども達の将来に向け、保育には教育との一体性が必須であり、教育の面から見た時、子ども達にとって必要なものは、ある程度の規模の人数の中で、意見のぶつかり合いや葛藤を経験して、様々な知識・技能・思考力・判断力・表現力・学びに向かう力等を身につけていくような環境を作ることである。
- ☆子どもたちは、友達関係等を通し、自分の力でその場を解決しようとする。これが社会であり、大きくなってから知るのではなく、子どもの時から遊びを通して学ぶべき大切なことである。



いただいた主なご意見

- 公立保育園の先生方の対応はとてもよく個人的に質が高いと感じている。転園してこの部分が担保されるのか正直不安がある。
- 公立保育園の廃園について、具体的な方針はあるのか。
- 仮に転園をした場合、現在より大人数の環境で集団保育を受けて新たな経験を積む機会を得られると思うが、また少人数の小学校に戻ることに矛盾を感じる。
- 勝山市の場合、小中学校・幼稚園の担当は教育委員会、保育園は福祉児童課という役割分担がされており、各担当課では子ども達の環境を全体的に踏まえ、責任を持った話ができないというところが難しい面である。



答申に向けた あり方検討委員会 の方向性



検討した観点

- 勝山市の出生数の減少が続いており、今後100人を下回る恐れがあること。
- 今後の少子化の推移等を鑑み、公立保育園への入園者数が増加に転じることは難しいこと。
- 幼児教育をより効果的に行うために、1学年あたり一定規模の人数を確保することが望ましいこと。



勝山市立保育園のあり方検討委員会の実施状況

今後の勝山市の保育・幼児教育のあり方

- ☆子どもたちの将来を考えたとき、こういった保育・幼児教育を提供すべきか市内の状況を的確に捉えつつ、勝山市全体で共通意識をもった保育行政を推進していくことが必要である。
- ☆勝山市の保育・幼児教育をより充実していくため、教育委員会が積極的に関わっていかなければならない。
- ☆市内の全ての子どもに、より質の高い保育・教育・環境を提供できるよう、勝山市が私立保育園や認定こども園と連携し、子育て全般に係るマネジメント体制を確立する必要がある。



答申の方向性について

- ①公立保育園について、廃園はやむを得ない。
- ②廃園にあたっては、時期について現在の利用者の意見を考慮して決定するとともに、今後、子ども達により質の高い保育・教育・環境を提供できるような体制をしっかりと構築すること。